

■ 1 テーマ

一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

神金小学校 広瀬 きよ美

■ 2 はじめに

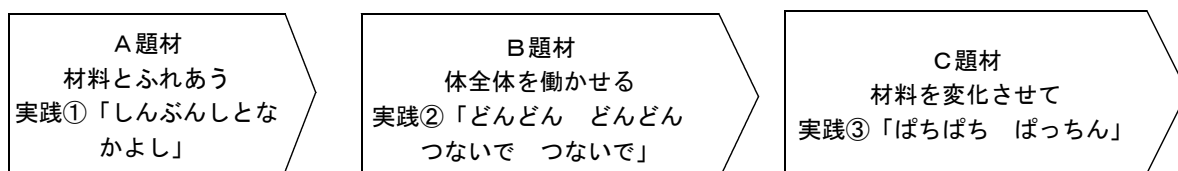
低学年にとって図工の時間は楽しみな時間の一つである。やってみたい、つくりたい、かきたい、こうしたいという気持ちをもって意欲的に取り組んでいる。中には技能の不十分さなどから思うように表現できない場合もあるが、自分なりのイメージを表現しようと作品と向き合い工夫する姿を見ることができる。

しかし、63次の報告でも課題としてあげられていた「子どもたちの体験の少なさ」は、今でも感じられる。「砂や水を使った造形遊びをしたとき、以前ではあつという間に砂場に大きな山ができ、友だちと協力しながら川や道や建物をどんどんつなげ、子どもたちは泥だらけになりながら全身で活動を楽しんでいた。しかし最近は入学前に砂遊びを思い切りしたことがない子もいて、まず砂や水に触れさせて慣れさせることに時間を費やしてからでないと、活動がつまらないものに終わってしまう。」(63次東山支部古屋)とある。このことは、担当する子どもが変わっても課題として挙げられる。

さらに、身近な材料から発想して活動する楽しさを十分味わえていないのではないかと考える。子どもたちの経験の少なさを図工の学習の中でどのように補いながら、身近な材料から発想し、体全体を働かせてつくる楽しさを味わわせることができるのか考えていきたいと思う。

■ 3 ねらい

経験の少なさを補いながら、体全体を働かせてつくることの楽しさを味わわせるために、
材料とふれ合う時間の確保と指導計画の工夫をしていく



経験値を増やし、経験から学んだことを次の活動でいかすというという視点を持って学習を計画するために、今回は上記のように「新聞紙や紙」を扱った題材を関連づけ、1つの題材が次の題材につながるようにして取り組んでいった。

第1学年図工科学習指導案

1 題材名 「ぱちぱち ぱっちゃん」 A表現（1）造形遊び

2 題材について

（1）児童の実態

男子4名（特別支援1名含む） 女子3名 計7名

A児（男）：視覚認知的に形を捉えることが難しく、平面に形を描画することが困難である。また、紙を折る、のりを塗る、はさみを使う等指先をコントロールして作業することに支援が必要である。

B児（女）：想像力豊かで、自分なりの表現を追求していくことができる。そのために道具や用具も自分で自由に扱うことができる。

C児（女）：作業がゆっくりだが、丁寧で作りたいものを作ることができる。しかし、思いつくまでが難しく、B児の発想をもとに表現していくことが多い。

D児（男）；生活経験値が少ないためか表現の域が限られている。表現したいことを思いつくまでが難しく、他の児童の発想をヒントに表現すること様子が見られる。したいことが決まると、自分なりに納得いくまで取り組むことができる。

E児（男）：特別支援学級に籍を置いている。造形遊びでは、並べたりのりを使って貼ってつなげたりすることができる。活動を持続させるためには、常に声かけが必要である。他の2人の児童は、技術的には拙く支援も必要だが、自分の表現したいことを決め、自分なりに工夫して取り組むことができる。

（2）題材の概要と育てたい資質や能力

本題材は、細長い紙をつないだりつるしたりしてできる形や、つなぐ紙の形や色をとらえて、イメージを広げていく活動である。徐々に長くなったり、八方に広がったりしていく紙や変化する空間から、子どもは、だんだんと変化していく周囲の様子を好奇心とともに楽しみながら活動をしていくことができるであろう。

また、ロープを張ることで、いつもと違った空間を意識し、さらに新たなつなぎ方や活動の工夫が生まれ、自分なりの形を表すことを期待したい。

ホチキスについては、「わかでへんしん」の授業で使用したが、うまく押さえられず何度も打ち直す子がほとんどだった。

【育てたい資質や能力】

- ・教室いっぱいに紙をつなぐ活動に、体全体を使って関わり、活動の中でできる形の特徴を味わいながら、つくりたいものやつくり方を思いつく。
- ・思いついたことを基に、さらにつないだり、組み合わせたりしながら、自なりに工夫してつくる。

(3) 指導にあたっての工夫

【指導計画の関連づけ】

新聞紙を使った造形遊び「新聞紙となかよし」「どんどん どんどん つないでつないで」を関連させ、もっとやりたいという意欲が「ぱちぱち ぱっちゃん」へと連続していくように配列し扱うようにした。

【試行錯誤の時間の設定】

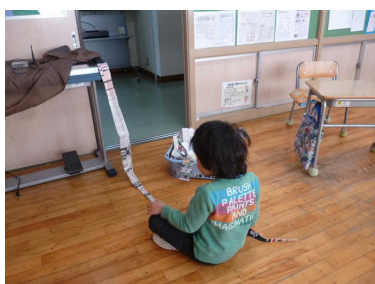
最初にこの材料や道具でどんなことができるのかという可能性を探らせ、安心して活動に入っていけるように、材料とじっくり関わるウオーミングアップの時間を設定する。それぞれが試したことを全体で共有し、次の活動のヒントになるようにする。

【場所の変化】

活動の前半は主材料に十分関わらせ、その材料でどんな表現ができるかじっくり考えさせるようにする。後半にロープを引き上げることで活動場所や形を変化させ、さらに活動を追求していく姿が生まれることを期待したい。

【発想の広がりを促す働きかけ】

発想に困っている児童には、まず話を聞き、他の児童の活動を紹介したり、鑑賞タイムを取ったりして、自分なりの表現が見つけれられるように働きかける。



新聞紙をつないでいく活動では、自分のスタートしたい場所を選ばせた。床から広がっていくものや高いところから下へつないでいく子、周りにあるものから始める子等、自分で考える様子が見られた。
横に渡したテープから紙を垂らし、その下をくぐる活動も出てきた。

3 題材の目標

細長い紙をつないだりつるしたりする活動を通して、自分なりの感覚を活かして作ることを楽しむ。

4 評価規準

「題材の評価規準」

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
細長い紙をつないだりつるしたりしていくことを楽しもうとしている。	紙をどのようにつないだりつるしたりすると面白いかを考えている。	紙のつなぎ方やつるし方などを工夫している。	紙をつないだりつるしたりすることで変化した形の面白さを感じている。

「学習活動における評価規準」

①ホチキスを使って紙をつないだりつるしたりすることに興味をもち、繰り返し行おうとしている。	①紙をつないだりつるしたりしながら、つくりすることに興味をもち、繰り返すやいたりしている。		
	②友だちのつなぎ方やつるした形から、いっしょにできることを思いついている。	① つながる形のおもしろさに気づきながら、つなぐ方向や形を工夫している。	①つないだりつるしたりしてできた形のよさや面白さを感じて味わったり、友達に伝えたりしている。

5 指導計画（全2時間）

時間	主な学習活動	関	発	技	鑑
20分	○材料や道具(ホチキス)に慣れ親しむ。 ・いろいろな止め方やつなげ方を試し、活動に見通しと関心を持つ。	○	○		
60分	○ホチキスを使って帯状に切った紙を、つなげたり、つるしたりする活動を楽しむ。 ○つるしていたロープを上げ、高さを変えた状態から活動を再開する。 ・つながる形の面白さに関心を持つ。(本時) ・さらにつなぐ方向や形や色を工夫しようとする。		○	◎	○
10分	○全体を見合って、形や表現のおもしろさ、気づいたことを発表する。 ・つないだ形のおもしろさを話す。				◎

6 材料/用具

教師：ホチキス，ガムテープ，スズランテープ（ロープ），洗濯ばさみ，リサイクル紙，色画用紙，画用紙，かご（紙，ホチキス入れ用），画鋸，デジタルカメラ（記録用），4 観点カード，ゴミ袋

児童：ホチキス

7 本時の学習

(1) 日時 平成29年2月8日（水） pm 2：00～2：45

(2) 場所 2 学年教室

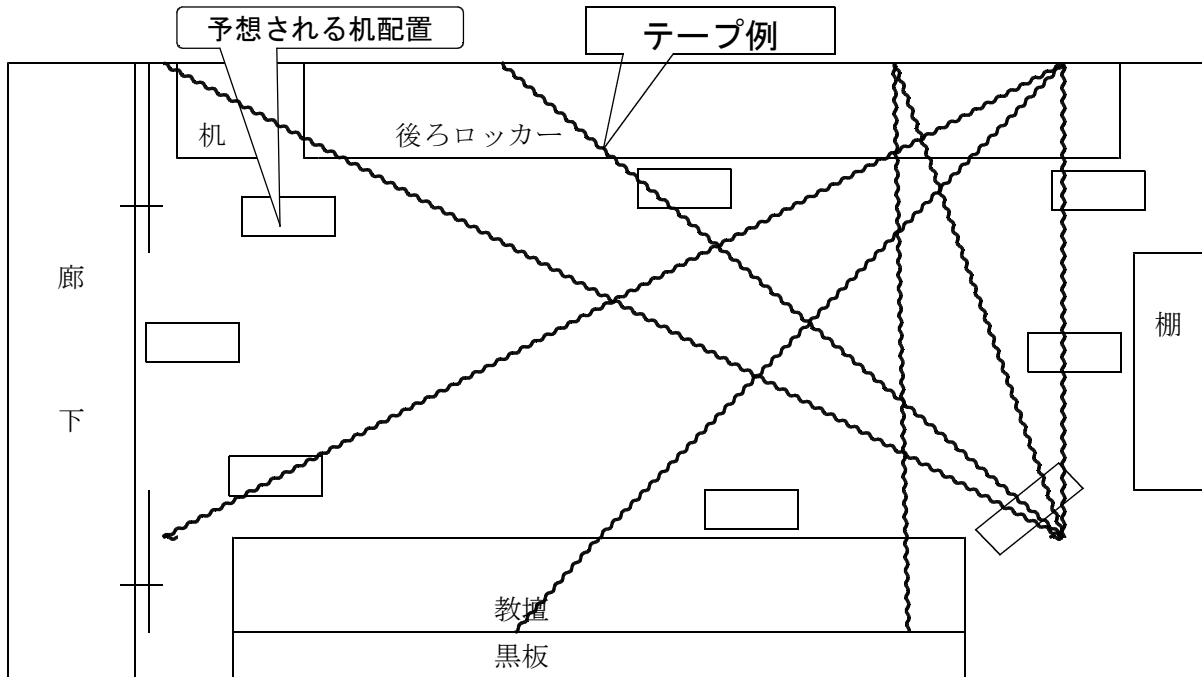
(3) 本時の目標

○帯状の紙を，つなぎ方を工夫して楽しむ。

(4) 展開

	主な 学習活動	・児童の反応 ○教師の働きかけ ☆指導上の留意点
導入 5 分	1 本時の学習課題と活動の見通しをもつ。	○前時に活動した状態のものを，ロープを引き上げる。 紙テープのつなぎ方を工夫しながら，つないでいこう。 ・どこから始めようかな。 ・上から下へつなげよう ・たくさんつるしていこう ☆どんなつなぎ方ができそうか，前時に作ったものを掲示しておき，表現に生かすことができるようにする。 ☆ホチキスや使う紙は，個別のかごに入れて運ぶこと，うちそこなったホチキスのほりも，かごに入れることを確認する。
展開 30 分	2 つなぎ方やつないでできる形を工夫しながら思いついた活動をする。	○活動が停滞している児童には，鑑賞タイムを取って友だちのアイデアに触れさせる。 ○制作途中の形やつなぎ方の工夫のよさを賞賛することで，自分の活動に自信をもって，楽しく工夫しながら活動を進められるようにする。
ふりかえり 10 分	4 友達のつくったものを見合い，感想を伝え合う。 5 今日の活動を振り返る。 ・学習感想を書く。	○教壇の上から全体を見渡して活動を振りかえる。 ☆つるしたものの下に寝転んだりくぐったりする様子が見られたら，賞賛し，みんなで体験させる。 ・木や森の中みたい ・新聞紙とちがって形がいろいろできた ・空を見ているみたい
	6 みんなで片付ける。	☆材料の分別，道具の片付けと点検をしっかりとらせる。

【場の設定】机の上，床，テーブルから等それぞれが選んだ場からスタートさせる。



8 授業後の研究会より

●授業を終えて

- ・様々な色の色画用紙の端紙を見ただけで，子ども達の関心が高まった。長さごとに大まかに分類して提示した。思ったより多くの材料を使用した。特に普段とちがう色合いやテクスチャーの用紙が興味をひいたようだ。
- ・ホチキスを使うということにも関心が高く，つなぐ活動にも期待感が高まった。持つ位置や力の入れ具合を少し指導することで，どの児童も使うことができたので，形を工夫しながらつないでいく活動に集中できた。特に支援を要するのではと予想していた児童も，少しの支援や助言にとどまり，友だちとの関わりの中で自分で活動を進めていくことができていた。
- ・前題材の「どんどん どんどん つないで つないで」では，新聞紙を広げていく活動だったので，最初は横に広げていく意識しかなかった。しかし，「あげたらどうなるかな」という教師からの投げかけからロープをあげたことで「もっと下につなげたい」と，横だけでなく上下(垂直)へと児童の活動空間に対する意識が広がった。

●児童の様子について

- ・特別支援のE児・・・自分の指をカメラのように枠を見立てて，自分なりに鑑賞していた。床の丸の形のところを踏んで歩きながら形の面白さを味わっていた。自分なりのこだわり(したいこと)を持ちながら，興味を持続させながら活動できていた。

・ A児（視覚認知的に課題を持つ）

・・・白い紙を選び、同じ作業（動作）や形の繰り返しを楽しんでいた。
つなぎ方を工夫し、いろいろな形がみられてよかった。

◆授業後の児童の振り返りカードより

①白い紙をつかってみたら、たきのようにもなったし、丸をいっぱいつなげてよかったです。みんながくふうしてあってすごかったです。いろいろな形があってよかったです。またやりたいなどおもいました。
A児

②(自)工夫

一回つなげたら色をかえるんじゃなく、同じ色をつかってみました。

(友)工夫

ぶらさげたり、わをたくさんつくってつるしてすごかったです。

くさりもたくさんつながっていてきれいでした。また、やりたいです。
B児

③自分の工夫

水色と青をこうごにやって川みたいにしました。ほかにも色紙をかさねたりわっかをやったりしました。

友だちのいいところ

Nさんのふうりんのところがきれいだなと思いました。りゆうは、色あいもいいしほんものみたいだからです。またやりたいなと思いました。
C児

④Yくんといっしょにして、山のように上に通して大きなマルを作りました。

低いけど滝みたいなものを作りました。

Sくんの丸いわがすごいです。またやりたいです。
D児

⑤(特支)

良かったところは、SさんとYさんが作ったすべり台みたいなものとわっかがきれいだったことです。

つぎによかったところは、たきみたいなところです。
E児

⑥Rくんといっしょにつなげてりれいみたいにできてよかったです。かんせいしたら、きれいにできてよかったです。とくに、丸をたくさんつくったところがきれいだったです。

⑦丸をいっぱいつないで、丸のジェットコースターみたいにしてみました。そしたら、(みんなに)きにいってもらえました。

Mちゃんの川がきれいだったです。

NちゃんとMちゃんで作った丸丸じょうもかわいかったです。

●全体から

[導入]

- ・前時間から、形や色、向きなど工夫してつなげることを考え続け、興味関心が途切れずに本時につなげることができた。
- ・導入時、ロープが上がったところで、視線も上がり、空間の変化を楽しんでいた。高さを変えることで、活動が広がった。

[展開]

- ・どの子も道具を使え障害にならなかったのも、活動が広がった。自然と協力し合って活動し、場が重なっても折り合いを付けながら活動ができていた。無心に作業をしていた。
- ・児童同士の仲間意識や集団性、児童相互の認め合う人間関係が感じられた。
- ・色の扱い方がきれいであった。
- ・活動の中で、E児の良いところをたくさん見つけることができた。
- ・独り言(つぶやき)を言いながら作っていたので、児童の考えが分かりやすかった。常に思考しながらの活動を引き出すことができた。

[振り返り]

- ・まとめの場面で、児童からは部分的なよさや美しさの指摘が多かったが、全体を見渡して感想を、共有する場面があった方が良かった。
- ・まとめのプリントはどの児童もしっかり書いていた。

●指導助言

- ・作っているもの(場)を誰も踏まなかった。特別なものを感じる気持ちや大事にする気持ちが感じられた。
- ・題材の紙とホチキスについて
低学年にとってとても良かったのではないかと。児童の思ったようにつなげられた。組み合わせたりつなげる楽しさを味わうことができた。

■ 5 成果と課題

【指導計画の関連づけ】

- ・ 1つの題材で完結するのではなく、いつの活動が次の活動につながるように意識しながら単元を関連づけていくことで、子どもたちが材料や素材と十分にふれ合い試しながら活動していくことができた。そのため、次の授業では「もっとこうしてみたい」という材料からの発想や意欲付けにつなげていくことができた。
- ・ 紙を使った造形遊びを意識して関連付けながら扱ったことで、造形遊びに関する意欲が高まり、活動も身体全体を働かせた活動になっていった。

【試行錯誤の時間の設定】

- ・ 生活経験や技術面での差が大きい児童にとって、道具の扱いについてウォーミングアップの時間を設定したことで、どの子どもも道具を使える喜びを味わえた。また、白い紙を使うことで、「どんな形が作れるのか」にポイントを絞って試行することができた。
- ・ 本時の活動の場に、前時に個々で作ったものを提示しておくことで、それぞれが試したことを共有したり、どんなことができるか振り返ったりするための支援にもなった。

【場所の変化】

- ・ 活動場所の空間が変化していく中で、色や形、高さ、イメージを広げていくことができた。特にロープを引き上げることで見る高さが大きく変化し、それまでの空間が、また違った様相をていすることになった。それが活動に対する意欲と創意工夫のための刺激につながった。
- ・ 活動場所や造形活動を、面から立体へ変化させていったことは、次の学年への橋渡しにもなった。

【発想の広がりを促す働きかけ】

- ・ 互いの活動の様子が見合えることで、アドバイスをしたり自分なりの発想を見つけたりすることが出来た。空間の変化も有効に働いた。
- ・ 「材料コーナー」として、色や種類の違う紙を用意したことで、児童の関心や発想を刺激することができた。

【支援について】

- ・ 児童一人一人が、一つひとつの造形に自分なりの意味づけをもって活動していた。E児についてもつぶやきを拾いながらあえて止めることなく、活動を保証したことがよかった。また、A児については、色の用紙を勧めずに形の組み合わせに十分に思いを巡らし繰り返される形の面白さや美しさ等について他の子に気づかせたことが、A児や他の児童の活動の刺激になった。

【授業後】

- ・ 1時間目の授業後、昼休み中も児童は作り続けていた。授業が終わったから(時間がきたから)終わりではなく、自分のつくりたいもの、その活動を追求し続けたいという様子が見られた。
- ・ 次の日に登校した児童は、きれいに見えるところをさがしながら寝転がったり遠くから眺めたりしながら、活動空間を味わっていた。